

1 はじめに

小学校学習指導要領生活編の目標（２）では「身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする」と設定されている。この目標の背景として，身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり，関わり合ったりすることで，自らが考え，工夫したり，想像したりし，それを伝え合うことを通して，自主性や表現力を育むことができるようにするといった点が挙げられる。さらに資質，能力を育成するため，〔身近な人々，社会及び自然に関わる活動に関する内容〕の（６）（８）を指導する。

ここでは，第２学年の「はっけんくふうおもちゃづくり」の実践を紹介する。塙山小学校では，例年だと「学校案内」で１年生と２年生の関わりがもてるが，今年度は，新型コロナウイルスの影響でもてななかった。そのため，今回が上級生として，初めて関わりをもつ場であった。その中で，自分が作りたいおもちゃを選択し，「うまく動かすためにはどうすればよいのか児童自身が考え，試行錯誤すること」や「１年生に向けて，分かりやすくおもちゃの遊び方を紹介するには，どのような説明をすればよいのかを考え，実行すること」で問題解決能力や表現力を身に付けられるような学習活動を展開していきたいと考えた。

2 実践事例

（９時間扱いの８時間目）

学習活動・内容	児童への支援
<p>1 前時の活動を振り返り，本時のめあてを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃのどこがうまく動かなかったか確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>おもちゃ大会に向けての最終確認をしよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書を見ながら，まだ不十分であるところを確認するよう指示する。
<p>2 おもちゃの最終確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書を基に，うまくいっていない部分を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの片方の児童が，おもちゃを動かすことで，もう一人の児童がうまくいっていない部分を客観的に見られるようにする。 ・グループになっておもちゃの見せ合いをすることでおもちゃ大会に向けての意欲を高める。 ・自分で試してうまくいったことは，計画書に書き加えるように促す。 ・おもちゃをためず機会を多く用いることで，風のあて方やゴムを回す回数などによって動きに違いが出ることに気づけるようにする
<p>3 おもちゃの遊び方の説明の練習をする。</p> <p>（１） 個人で練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「まず」「次に」などを使って，１年生にも伝わる説明の仕方で話すように指示する。 ・聞く人は，１年生の立場に立って，説明がわ

<p>(2) グループで練習する。 ・よいところ、直したほうがよいところを伝え合う。 4 本時の振り返りをする。</p>	<p>かるか伝え、よいところは全体で共有するようにする。 ・おもちゃ大会の流れを説明することで、次時の見通しを持たせる。</p>
--	---

3 資料

おもちゃ大会で1年生に説明している様子



4 成果と課題

(1) 成果

児童は、おもちゃを作っていく過程で、どんな材料が必要かやプログラミングを使い、「作る」「ためす」「修正する」と順序立てて、自主的に考えることができていた。うまくいかない際には、どこがよくなかったのか自分で考え、問題解決しようとする姿が見られた。さらに、1年生に向けてどのような説明をすればおもちゃの遊び方や面白さが伝わるかを考え、友達同士で練習し、意見をもらいながら練習できた。実際のおもちゃ大会では、練習の成果を発揮し、一人一人が自分のおもちゃの遊び方を丁寧に説明し、1年生に楽しんでもらうことができていた。おもちゃ大会終了後に、振り返りをする際も、「こう説明したら、1年生が分かってくれた。」や「自分が作ったおもちゃで楽しんでもらうことができてよかった。」といった感想が多くあった。試行錯誤して何かを作り上げる喜びや自分が言いたいことが相手に伝わる楽しさを感じることができたと考えられる。

(2) 課題

おもちゃがうまく動かない際に自主性を尊重し、児童自身にすべて考えさせるのか、おもちゃの正確性を尊重し、動かし方を教えるのか悩んだ。児童の自主性を奪わないよう、すべてを教えるのではなく、部分部分を教え、動かないおもちゃに対してなぜ動かないのか考える時間を多く確保しなければならないと感じた。

1年生に向けて説明をする際に、うまく説明ができずおもちゃを思うように動かせない児童も何人か見られた。練習の段階で「まず」「次に」などの説明の仕方を可視化したり、分かりやすい説明をしている児童に発表してもらったりして、自分との説明の違いに気付かせ、分かりやすい説明をするにはどうすればよいのか考える時間を設けなければならないと感じた。